

平成 22 年度 第 2 回 櫛引地域審議会 会 議 録



期 日：平成 22 年 10 月 8 日(金)13:30～

場 所：櫛引公民館多目的ホール

平成22年度 第2回 櫛引地域審議会

日時 平成22年10月8日(金)

午後1時30分開会

場所 櫛引公民館多目的ホール

一 次 第 一

1 開 会

2 会長あいさつ

3 講 話

①「婚活パーティー成功事例の紹介」

講師：レストランダイニング グラード 三浦明弓氏

②「婚活事業の現状と課題」

講師：NPO 法人元気net かほく 理事 澤 善博氏

(休憩)

4 報 告

(1) 「櫛引地域コミュニティ実態調査」の結果概要報告

資料1

資料2

(2) 「20～40代の市民の生活・意識に関するアンケート調査」1次分析報告

資料3

資料4

5 協 議

(1) 「地域社会で取り組む結婚支援のあり方」について

(2) 今後の地域審議会の進め方について

(3) その他

6 そ の 他

①婚活支援講演会(10/23)参加呼びかけのお願い・・・

別添チラシ

7 閉 会

平成22年度 第2回 櫛引地域審議会席表

三浦 明弓 講師
 コーディネーター
 小笠原 学
 澤 善博 講師
 会長
 齋藤 三紀



畑山久惠
 上野進
 成田新一
 澤川宏一
 渡会昇
 松浦安雄
 佐久間泰子
 田中敦



金内勝雄
 小林良市
 五十嵐繁
 成田勇
 遠藤一男
 芳賀俊之
 阿部元喜



今野勝吉 産業課長	八重幡久喜 教育課長	吉住光正 長	地域活性化推進室	支所長 山口朗	次長兼総務課長 平藤博巳
--------------	---------------	-----------	----------	------------	-----------------

報道

本間俊司 市民福祉課長	難波貢 健康福祉主幹	佐藤正和 建設環境課長	宮崎哲 振興主査	総務課総務地域 佐藤文博	振興班主事 総務課総務地域 菅原正一	振興主査 総務課総務地域
----------------	---------------	----------------	-------------	-----------------	--------------------------	-----------------

梅津一成 振興班主事	総務課総務地域	清和幸裕 振興班主任	総務課総務地域
---------------	---------	---------------	---------

傍聴席

受付

櫛引地域審議会委員名簿

平成22年第2回

No.	所属団体名等	役職名または職業	氏名	備考
1	櫛引区長会	会 長	齋 藤 三 紀	
2	櫛引自治公民館連絡協議会	会 長	上 野 進	
3	鶴岡市黒川地区農業村落振興会	会 長	齋 藤 賢 一	(欠席)
4	庄内たがわ農業協同組合	理 事	成 田 新 一	
5	株式会社産直めぐり	代表取締役	澤 川 宏 一	
6	出羽商工会櫛引支部	代表理事	渡 会 昇	
7	櫛引観光協会	会 長	松 浦 安 雄	
8	鶴岡市社会福祉協議会	理 事	佐久間 泰 子	
9	櫛引地区民生児童委員協議会	会 長	田 中 敦	
10	櫛引PTA連合会	会 長	鈴 木 太 一 郎	(欠席)
11	櫛引体育協会	会 長	金 内 勝 雄	
12	荘内加藤清正公忠廣公遺蹟顕彰会	副会長	小 林 良 市	
13	鶴岡市老人クラブ連合会 櫛引支部	支部長	五十嵐 繁	
14	櫛引地域婦人会	会 長	畑 山 久 恵	
15	鶴岡市消防団櫛引方面隊	隊 長	伊 藤 信	(欠席)
16	(松根塾・塾長)	大学非常勤講師	成 田 勇	
17	(ふるさとむら宝谷運営管理組合・組合長)	農 業	遠 藤 一 男	
18	(NPO法人庄内アインシュタインの会・理事長)	自営業	宅 井 き く	(欠席)
19	(庄内医療生協櫛引支部・支部長)	農 業	芳 賀 俊 之	
20	(鶴岡まちづくり塾・塾生)	大学生	阿 部 元 喜	

市職員出席者名簿

(平成22年度第2回会議)

No.	役 職 名	氏 名	備 考
1	櫛引庁舎支所長	山 口 朗	
2	次長兼総務課長	平 藤 博 巳	
3	産業課長	今 野 勝 吉	
4	建設環境課長	佐 藤 正 和	
5	市民福祉課長	本 間 俊 司	
6	健康福祉主幹	難 波 貢	
7	教育課長	八重幡 久 喜	
8	総務課 総務地域振興主査	菅 原 正 一	
9	総務課 総務地域振興主査	宮 崎 哲	
10	総務課 総務地域振興班主任	清 和 幸 裕	
11	総務課 総務地域振興班主事	佐 藤 文 博	
12	総務課 総務地域振興班主事	梅 津 一 成	
13	本所 企画部地域活性化推進室長	吉 住 光 正	

5. 協 議

(1) 「地域社会で取り組む結婚支援のあり方」について

【参考事項】 櫛引地域婚活支援対策検討会の状況 (平成 22 年度中 3 回開催)

第 1 回櫛引地域婚活支援対策検討会の開催(7 月 23 日)

第 2 回櫛引地域婚活支援対策検討会の開催(10 月 6 日)

第 3 回櫛引地域婚活支援対策検討会の開催(予定 11 月中旬)

※第 3 回目で検討会のまとめを行う予定

未婚化や晩婚化への対応を、当事者だけの問題として捉えるのではなく、それぞれの分野で連携協力しながら進めていくあり方の意見集約であり、未婚者・結婚支援事業者・家庭・学校・地域や市民団体・職場・行政など各分野で取りくむ必要があると思われるものをまとめる予定。

(2) 今後の地域審議会の進め方について

○第 3 回櫛引地域審議会の開催・・・11 月下旬開催予定

(予定内容)

- ・ 櫛引地域農業農村課題調査の中間報告(産業課)
- ・ 総合計画実施計画の策定に係る説明(本所企画課)
- ・ 協議テーマに係る議論及び中間まとめ 他

○第 4 回櫛引地域審議会の開催・・・2 月開催予定

(予定内容)

- ・ 本所の担当課からの課題等説明(未定)に係る意見について
- ・ 平成 23 年度の地域審議会の進め方について
- ・ 協議テーマに係る議論及び市への提言について 他

(3) その他

1、開 会

13 : 30

平藤 博巳次長兼総務課長（以下次長）

本日はお忙しい中、会議に出席いただき誠にありがとうございます。ただ今から平成22年度第2回櫛引地域審議会を開会させていただきます。

はじめに、齋藤会長からごあいさつを申し上げます。

2、会長あいさつ

齋藤 三紀 会長（以下会長）

こんにちは。今日はそれぞれの立場でお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

今月の1日で合併5周年を迎えましたが、その中で驚いたことがあります。それは、予想以上に人口が減ったということです。合併当初確か144,000人くらいでしたが、約5,700人の減となり、これは旧朝日村が無くなるくらいの人口が減少したということです。若者の人口も減りましたし、様々な問題に波及するかと思えます。また、全人口における高齢者の割合は27%くらいで、今度の国勢調査の結果には恐らく30%くらいになっているかと思えます。つまり3人に1人が65歳以上ということになり、全国的にも問題ですが、どう歯止めをつけるかが地域全体の課題です。どうぞ活発なご意見をお願いします。6月に第1回目の会議を実施したわけですが、その中でも色々なご提議がありました。多くの方から人口減少の対策として、婚活の問題について同意をいただき、今年度はこの件につきまして協議します。

今日は、講演もごございますので時間的にもゆとりはありませんが、おおよそ4時ごろをめどに進めてまいりたいと思いますのでよろしくをお願いします。

次長

ありがとうございました。続きまして資料の確認ですけれども、委員の皆様の席には次第と、講話1、2、資料1～4までお配りをしております。ございますでしょうか。

それでは3の講話に移りますけれども、お二方の先生から講話をいただきます。講師のご紹介を菅原からさせていただきます。

3、講話

菅原 正一主査（以下主査）

本日の第2回櫛引地域審議会の冒頭にあたりまして、協議テーマでもあります婚活関連のことについて、先進的な立場で実践していらっしゃる二人の方から講話を頂くこととしております。

まずはじめに講話1の資料にごございますけれども、鶴岡市本町1丁目にあります「グッドラックカフェ」、新形町の「レストランダイニング グラード」、双葉町にあります「串焼

サンダーバード」、これらの店舗を経営。「レストランダイニング グラード」でカップリングパーティーを8回程開催していらっしゃるしまして、県内の婚活イベント開催の中では5本の指に入るくらい大変高率でカップルが成立するパーティーを開催されている三浦明弓様から最初にお話をいただきます。続きまして、「婚活事情の現状と課題」という演題で、NPO 法人「元気 net かほく」の少子化対策委員長であり理事でもあります澤善博様から講話をいただきます。澤様につきましては、河北町の社会福祉協議会の事務局長をされておりまして、なおかつ河北町結婚相談所事務局長でもあります。「元気 net かほく」につきましては、県のホームページ「出会いセンター」を運営している法人です。一昨日は県の婚活コーディネーターの小笠原さんからも櫛引公民館で講話をいただきました。そのNPO 法人「元気 net かほく」の少子化対策委員長をされておりまして澤理事から、三浦さんの後にご講話を頂くことにしています。

三浦さんからは、婚活パーティー成功事例の紹介を15～20分、澤理事のご講話については30～40分で併せて1時間を想定しておりますのでよろしくお願いします。

それでは三浦さん、よろしくお願いします。

— 三浦 明弓氏講話 —

主査

ありがとうございました。質問については澤理事の講話が終わってからまとめて、それぞれの講師にお願いしたいと思います。それでは「婚活事情の現状と課題」ということでNPO 法人「元気 net かほく」少子化対策委員長の澤善博様をお願いします。

— 澤 善博氏講話 —

次長

澤先生、講話ありがとうございました。せっかくの機会でございますので委員の皆さんからご質問があればお願いします。いかがでしょうか。

小林 良市委員

ご講話ありがとうございました。大変参考になりました。色々データも示されているわけですけど、このデータは未婚者の意識が中心になっているわけです。確かに未婚率が高くて深刻な状態ですが、一方でかなりの方が結婚しているわけです。既婚者の意識ですが、どういう人がどういう出会いで結婚しましたというデータもあって、未婚者と既婚者の意識のギャップをどうやって埋めるかがこれから婚活の活動を展開していくうえで重要なポイントになると思いますがいかがでしょうか。

それと、不思議に思いますのが、鶴岡の未婚率のデータが2ページ目にありますが、各

年代の総数が同じなのに、未婚率の男女差がかなりあります。女性が結婚すれば男性も結婚するはずなのにギャップが生まれる、総数が同じなのに差ができるのはなぜなのでしょう、どうお考えですか。

澤 善博氏

既婚者にどうして結婚したかとは聞いていません。私どもは結婚相談所で婚活イベントをやった時には未婚の方を主体に考えているものですから、未婚の女性が望む男性、あるいは男性が望む女性、こういう視点でアンケートなり面接調査をしたデータになっています。そして、未婚率、既婚率については、必ず同年齢の人同士結婚するわけではないので、男女差が出るものと思います。

次長

ほかにございますでしょうか。

畑山 久恵委員

大変良いお話いただきました。先程澤先生の話の中で、男性は審査で落とされると言っていましたけど、その一番の理由は为什么呢。

澤 善博氏

当方の結婚相談所では、30代後半の男性で登録されている方は、ほとんど高卒で大卒の人は40代の再婚者です。40代は男女のほとんどが再婚者で、30代は初婚者です。男性は高卒者が多く、公務員や県内の大手企業に就職されている方の登録はほとんどありません。ですから女性側からするとまず学歴・職業が重要で、高学歴・高収入を求めますが、男性で該当する人は少ないです。逆に男性側からすると、女性の多くは高学歴・高収入です。

相談所では女性に男性の情報を書類で伝えるのですが、女性に書類を送っても10回に2回しかお見合いにならず、お見合いに至るのが難しいです。我々の経験では、イベントをしても10組参加した場合1組しかカップリング成立しません。一般的な資料によると男性はお見合いが14回は必要で、ほとんどが空撃ちの鉄砲になるという現実を皆さんに知っていただきたいと思います。それくらい大変です。

成田 勇委員

ご講義どうもありがとうございました。三浦さんにお伺いします。300人近く集めて24組、そのうち2組がご結婚という素晴らしい結果ですが、カップリングに成功する男性の共通点は、三浦さんから見ても何かありますか。

三浦 明弓氏

参加者の方々を見ますと、皆さん身なりはしっかりしていて、甲乙つけがたいです。成功した2組のカップルを見ても、見た目もすてきな方々でどうして今まで結婚というものにご縁がなかったのかと思います。女性の方も仕事をしっかりされていますし、逆に仕事を頑張りすぎて出会いが無かった方が多いと見受けられます。男性客の中には金髪でアクセサリーを身につけて入られる方もいらっしゃいますけど、そこは個性ですが、見た目は重要だと思います。

会の中で消極的な男性には女性が集まらないですね。ですからトークですとか雰囲気とか、自分磨きは大切だと思います。主催者側からしても、「今回は盛り上がりには欠けたね」という時もありますし、「今回は男性がリードしてお話が進んで男性がすてきだったね」と友人との反省会で話す時もあります。リピーターで来てくれる男性も女性もいらっしゃいますので、その方々から見たら私たちと同じ印象を受けるのではないのでしょうか。

次長

ほかにございますでしょうか。

五十嵐 繁委員

先程澤先生もおっしゃいましたが、真面目な方が婚期を逃しているという話がありましたが、なぜ真面目な人が結婚できないのか。今の女性の方々の思い、それから先程大卒・公務員の方々は婚期が早いという言葉がございましたが、私どもの年代でございますと、真面目な人は婿でも嫁でも「早くもらわねどもらわいなくなるぞ」と言われていましたが今は逆で、当地区でも40歳以上の未婚の方がおります。その方々を見ますと本当に真面目で会社にもちゃんと行っているんです。そんな方々が結婚できず、遊んでいるような22、23の若者が早く結婚しているという例が多くあります。そうしたことを解消するにはどんなふうにすればいいか教えていただければと思います。

澤 善博氏

それが私どもの一番の課題です。我々が結婚した1970年前後といいますか、40年前かは特段の条件が確定されませんでしたという見合いもあって、10数回もしなくても、3~5回くらいで結婚できたのかなと思います。簡単な話で、今女性が難しくなっているというわけです。早く決まっている方はいいのですが、女性が今未婚で残っている方と結婚しようという気が起きるかが課題です。そうすると男性に努力が欠けているわけです。

もう1つは、ほとんどの女性が仕事を持っていますから、慌てて結婚しなくても生活できるわけで、このように時代が変わったのは事実です。アンケートにあるように、結婚したくないと考える女性は実際にはいないですが、30歳を過ぎると今から理想を下げるというふんざりがつかなく、そのまま歳を重ねる独身者が増えています。

一方で40代独身の男性の母親からは少なくとも子供が生める37、38くらいの女性を紹

介してくださいと言われるのですが、若い女性は難しいので再婚者はどうですかと声をかけますが、50歳を過ぎないといいと言わないです。再婚同士であれば、受けますが。

女性は金銭的にも自立して生活できる時代になったので、結婚できなくてもいいと諦めるのが早くなっているのではないかと思います。

次長

まだご質問はあるかと思いますが、審議会のこれからの日程等もございまして、今日のところはここで終わりとさせていただきたいと思います。

最後に三浦先生と澤先生にもう一度拍手をお願いします。ありがとうございました。

それでは5分間の休憩させていただきます。

— 休憩 —

4、報告

次長

それでは、会長から進行をお願いします。

会長

はい、それでは休憩前に引き続きまして会を進行します。

4の報告に移ります。(1)結果概要報告、(2)第1次分析報告をお願いします。

山口 朗支所長 (以下支所長)

報告に入る前に1つだけ私からお願い申し上げます。審議会の委員の皆様、本当にご苦勞様でございます。ただ今婚活に関する講話に熱心に質疑いただきありがとうございます。大変参考になる内容でした。一昨日であります、2回目の鶴岡市櫛引地域婚活支援対策検討会を開催しました。今日いらっしゃった澤先生と同じ県婚活コーディネーターの方からお話を頂きまして意見交換を行っていただきましたけど、婦人会から来られました女性委員の方が数名おまして、特に熱心な質疑が行われました。この婚活検討会での意見・提言につきましては、次回の11月までにまとめることとしていますが、今日の地域審議会につきましては、先程の講話とコミュニティ実態調査並びに20~40代の市民の生活・意識に関するアンケート調査に関する報告を参考にさせていただきながら、テーマに沿って協議いただきます。

なお、当審議会の次回は11月下旬開催予定でございますけど、予算要求も期限になりますので、この審議会で出されました意見、それから提言について中間的なまとめを行いまして、来年度の事業に反映させてまいりたいと考えております。

それではこれから報告させていただきますので、よろしくをお願いします。

次長

それでは（１）の「櫛引地域コミュニティ実態調査」の結果概要報告について、資料１，２により報告させていただきます。座って説明させていただきます。

資料１でございますが、「櫛引地域コミュニティ実態調査」の概要について、説明申し上げます。この調査は各自治組織の実態と課題を把握するために、平成 20 年度から 3 ヶ年実施しました。それぞれ担当する職員が各地区に出向きまして聞き取り調査を行ったものでございます。調査に協力いただいた方々は、各地区の区長さんを始めとした役員の皆さんです。調査担当者は庁舎総務課職員、市民福祉課職員、教育課職員でございます。調査の項目でございますけど、ここにありますとおり、１．住民生活・地域の概況、２．自治会の状況、３．地域内の活動、これらについて聞き取りをさせていただきました。４．調査地域の概要でありますけど、概要は後ほど委員の皆様から資料２によってご覧いただきたいと思っておりますけど、平成 20 年度 5 地区、21 年度 8 地区、22 年度 8 地区、合わせて 21 地区でございます。聞き取りの中でそれぞれの項目ごとに、事務局として特徴的な事を 2 ページからまとめてみましたので、これによって説明させていただきます。

まず（１）の特徴的な内容の自治会運営についてですが、１つ目は「宅地造成により新興住宅の世帯数が多くなり、県外からの転入者が増え、従前の地区運営をそのまま踏襲することが困難になって、地区総会の出席率が低いことから代議員制度の導入を検討している」という下山添地区。役員の兼務によって経費節減を図っている東南地区、中田地区。４つ目は、「平成 20 年度に丸岡地区地域づくり計画を策定し、特徴的な地域づくりをしており、平成 21 年度には丸岡地区住民憲章を制定している」という丸岡地区で、「自治会の会報発行を計画しており、スタッフがあと 4，5 人ほしい」というお話でした。７つ目、地区事業の 5 つの柱を掲げている王祇地区。王祇地区は宮の下地区と春日山地区が平成 21 年 3 月に合併した地区です。地域住民の一体性を確保するためにこのような柱を掲げて地域づくりをしているということです。「地区費は 1 戸あたり年間 24,200 円で、会計は大変だが、地区費の値上げはできず、役員報酬 1 割カットした」ということでした。同じく広報紙「黒川中だより」を月 2 回発行し、地区民への広報活動に力を入れております。松根地区では、「定期的に役員が交替する自治組織では長期的な視点に立った事業展開が行いづらいとの考えから『松根塾』組織を立ち上げ伝統芸能の復活や地区ゆかりの地訪問、六十里越街道整備などを行っている」、同じく「松根塾でホームページを立ち上げる」という積極的な取り組みがございました。

この自治会運営についてでありますけど、変化に対応して新たな自治システムの検討や取り組みが行われているということでもあります。丸岡地区や、新たに合併した王祇地区では住民に対する分かりやすい目標を設定した地域づくりを進めています。加えて役員報酬の節減の動きがございます。地区の運営における経費の見直しが行われているようです。さらには、広報活動の取り組みが見られることが注目されますし、他の地区へ波及していくのではないかと思います。これらに対するノウハウの支援も庁舎として検討していく

課題だと思います。

次が（２）共同作業についてですが、これはやはり高齢化が進んで困難になっております。

（３）の農地・水・環境保全事業についてであります、「この事業については非常に大きな効果がある、共同活動の支えとなっている、中山間地域では必要な事業であり、農業を集団化していくためには必要な制度」という松根地区の意見です。最後の「地区民が参加する農地・水・環境保全会で市道路肩にヒメイワダレ草の植栽を行うなど活発な環境整備活動を行っている」という黒川中区の取り組みでありました。そして農地・水・環境保全対策により環境整備に積極的に取り組んでいる地区が多く見受けられましたし、花いっぱい運動の原動力にもなっていると思います。この制度は平成 23 年度まで継続されると聞いております。

（４）の高齢者の見守りでありますけど、５つ目の「高齢者の見守り活動は民生児童委員が毎週 1 回ヤクルトを配布しながら状況を把握している」高齢者の話相手を併せた取り組みを多くの地区で行っているものでございます。「社会福祉協議会に『小地域福祉活動支援事業』の導入により民生児童委員が作成した要支援者マップを基に、独自の要支援者福祉マップを作成し、公民館に保管している」という取り組みが桂荒俣地区でありました。高齢者の見守りシステムは多くの地区で機能しているようでありますし、丸岡地区にあっては「独居老人世帯には民生児童委員のヤクルト配布のほか、防犯パトロール 5 人が交替で月 2 回訪問している」という取り組みも行っております。

（５）の子供の見守り隊でありますけど、見守り隊はそれぞれ地区で積極的に取り組んでおりますし、それに伴いまして事故等も少なくなっております。４ページの 3 つ目でございますけど、「学区が二つに分かれていて西小学校に通学している児童が大半であるが、少数の児童は南小学校に通学しており、地区役員の対応も大変である」というお話、丸岡では「登下校の見守り隊は、見守り隊 24 人と防犯パトロール 5 人が毎日 3 人体制で行っている」という例、「小学生の見守りについては、ボランティアを募集し、現在は 4 班 40 人体制で対応している」という松根地区の例がございました。これら見守り隊についてもそれぞれの地区で組織され、機能しているようでございます。

次に（６）を飛ばし、（７）まつり、伝統文化についてでございますけど、下山添地区の「氏子以外も参加しやすい体制を検討中」というお話、板井川地区の「天狗舞・獅子舞などの伝統芸能が保存会によって継承されており、保存伝承に苦慮している他の地区への指導も行っている」ということでございます。他地区への指導といたしますのは、松根地区に対して指導を行っているということでした。次が、「天狗・獅子舞の後継者も育っており、伝統文化の継承は今のところ心配はない。平成 21 年 10 月に伊勢神宮に奉納した」という東北・東南地区。黒川については、「若者が地元の仕事がないことから卒業と同時に地元を離れる。家の跡継ぎがないことは黒川能の座員減少につながることであり、黒川能の保存の観点からも心配である」という黒川上・下地区でありました。地域住民のつながりが

強く、しっかりとした住民自治組織の形成に、伝統芸能の継承が果たす役割が非常に大きいというのがこの調査においてより明確になったと思います。これらを核として地域づくりに対する支援も有効であると思います。5ページですけれども、「伝統芸能については一時途絶えた『天狗舞・獅子舞』を復活させ、現在は20人以上のメンバーがいる。地域活性化の大きな柱となっている」という松根地区。これは「松根塾」での取り組みでございます。

(8)の産業についてでございますが、地域内の営農類型につきましては記載のとおりで、水稲に加えて他の作物との複合経営でございます。それぞれの地区の特色をいかした経営がなされていると思います。宝谷ではそば栽培に力を入れており、アサツキ栽培が盛んで23戸が取り組んでいる田代地区。アサツキ栽培は馬渡地区でも取り組んでいます。『産直めぐり』の会員は40人ほどおり、果樹、山菜、孟宗、きのこを中心に出荷している。個人経営の直売所が4軒ある」という西荒屋。西片屋では、「さくらんぼに加え梅の栽培も多い。今後ともさくらんぼの栽培は継続して行う。さくらんぼは販売と観光さくらんぼ園で地域活性化の大きな要因となっている。空き家にハクビシンが住み着いて農作物に被害が出ている」との西片屋地区。産業、特に農業においてはそれぞれの地区が特性を生かした作物の振興に力をいれていますが、産直が果たしている役割は非常に大きいと感じられました。

6ページでございますけど、(9)各層団体の状況でございますが、「地区公民館を会場に『放課後子供教室』を開催している」下山添地区、「高齢者で『いきいき健康クラブ』を組織し、85人が参加して10のサークルで活発に活動している」丸岡の例がありました。「いきいき健康クラブ」は、平成22年度は15の地区で活動を行っています。

(10)は防災・防犯についてでございますけど、「消防団員が日中は地元には少ないが、王祇会館や地元の会社勤めの人がいざという時に対応してくれる」という王祇地区の例。総じて日中の消防体制が手薄になって心配だという話でした。この不安を解消するために「鶴岡市消防団活動協力員」が設立されました。自主防災組織の活動についてはばらつきが見られますけど、先進事例を参考にした体制制度を願いたいと思います。

最後に(11)でございますが、生活の足の確保についてでございます。2つ目の「スクールバスの混乗システムをとっているが、定期的に利用する人はいない。買い物や通院などの移動困難者は家族の送迎や隣人の送迎に頼っている」という宝谷地区のお話でございます。7ページの「バス路線の要望を庄内交通に出している。以前は高速のバス停がバイパスにあったが、高速道路ができてからなくなってしまった。上山添まで2キロくらい歩かないとバス停がないので不便である。今でも二人ほど利用者がいる」という丸岡地区。交通弱者に対する対策として路線バスの活用、スクールバスへの混乗など利便性を高めるための施策を検討しています。高齢者の場合は自分で運転ができる方、運転できなくなって公共交通を利用している方、公共交通への乗り降りもできなくなり個々への対応が必要な方といった段階がありますが、今後の公共交通の活用について、検討していきます。

いろいろ課題はありますが、地域課題解決のための施策として展開されている事業といたしましては、①は防災に対する不安の解消として「鶴岡市消防団活動協力員」が創設

されました。平成 21 年度に櫛引地域で 30 名が登録しています。消防団員が不在の時に消防活動にあたることになっています。②おらが自慢づくりモデル組織等支援交付金該当ということで、平成 21 年度は宝谷の八木節、たらのき代安産地藏まつりの子供相撲大会の梵天製作への支援。③のつるおかいきいきまちづくり事業に採択されまして、平成 21 年度は綴れ織りを使った日用品の開発、天狗舞・獅子舞保存伝承事業が八幡神社、丸岡地区の歴史と文化を背景とした豊かな地域づくり事業は記載のとおり平成 22 年度も継続されています。平成 22 年度は、イバラトミヨの保護と活用によるまちづくりという取り組みを行っています。

最後の 8 ページでありますけど、山形県で実施している「庄内伝承の里」魅力発信支援事業で、平成 20 年度から宝谷かぶの保存伝承、黒川能の伝承事業、これらは平成 20、21 年度継続事業、松根塾の事業は平成 22 年度までの 3 ヶ年継続ということで取り組んでいます。⑤の平成 22 年度地域コミュニティ調査研究事業でございますけど、地域のリーダーとして地域コミュニティを支え、活力を生み出す人材育成を目的にセミナーや先進事例視察を実施しております。調査項目はコミュニティ実態調査の課題と捉えました若者の定住促進等 4 項目に対して、東北公益文科大学の先生を講師に迎え、現在研修を進めているところです。今後も実態調査の結果を参考にしながら必要と思われる施策を共に構築していきたいと考えておりますのでご指導のほどよろしく申し上げます。

資料 2 の報告書でありますけど、これは後ほどご覧いただきますけど、実態調査でどういう課題があってその課題に対する対応の方向性としてひとまずまとめたものです。課題としては①～⑪までであり、課題ごとにさらに対策を考え施策を展開しておりますのでご理解をいただきたいと思えます。

以上をもちましてコミュニティ実態調査の概要とさせていただきます。

会長

少し時間がおしてきたようですが、3 ヶ年にわたり地域コミュニティ、いわゆる地域共同体の課題を吸い上げ、そのまとめをしていただきました。それについてぜひ聞いておきたいことがありましたらお願いします。いかがでしょうか。

芳賀 俊之委員

婚活支援についてですが、この後どうする予定でしょうか。

次長

コミュニティ実態調査の結果を受けまして、先程資料 1 の最後のところで申し上げましたが、地域コミュニティの調査研究事業で課題として取り上げました 11 項目の中から若者の定住促進、少子高齢化への対応、高齢者への支援対策、防災についてどう進めるかという検証を今年度事業で進めておりますし、それ以外でも 11 項目の中から結婚対策を別の事

業を進めております。この課題について3カ年の調査は終わって、23年度におきましてもこれらの課題の中から必要な項目について新たに事業展開することを考えております。先程地区の広報活動が重要だということが分かりましたので、各地区でどのようにお考えかという問題はありますけど、そのノウハウの講習等を含めて検討していきます。各地区の区長さんに報告させていただきましたが、なお、内容をご覧になっていただきいろいろご意見いただきながら事業に反映させていきたいと思っております。

芳賀 俊之委員

実際の私のイメージとしては、この地域審議会というものはこういう地域の課題が土台となって進むと思ってきたのですが、話を聞いていますと事務局では何年か前から審議会をやっていて、今年はこの形になったと振り返っていますが、今この地域にどういう組織があって何をしているかということも、一般の住民からすると全く見えない、私自身もよく分かりません。そのことも含めて、もう少しこの地域がどんな組織で何を取り組んでいるかということを知るような機会を作ってほしいと思っておりますし、この地域審議会は来年度以降も続くと思っておりますが、こういうものを土台にして地域の課題に取り組んでいただきたいということを申し上げておきたいと思っております。

会長

要望として承ります。ほかにいかがでしょうか。なければ先般各地区の区長から協力いただいてアンケートの第1次の分析が終わったようですので報告をおねがいします。

佐藤 文博主事（以下佐藤）

それでは報告します。資料3と4がありますが、時間も限られておりますので資料3の概要について説明させていただきます。資料3の報告書は8月に実施したアンケートの未婚者を中心に集計して、この審議会と検討会のための資料としてまとめたものでして、今後の2次分析におきましては既婚者も含め、全国的ベースと対比しながら分析を行っていきたく思いますのでよろしくお願いします。

1ページをお開きください。アンケート1次集計1次分析概要ということで、「1、回収率」ですが、対象数2,356人のうち、69.2%の1,630人分が回収されまして、そのうち1,576件が有効回答でした。続いて「2、全体の集計」についてです。回答者の属性ということで、性別・年代であります。男性が48.7%、女性が50.8%となっております。続いて結婚の状況であります。「結婚していない」が回答者の中の割合として31.7%となっております。人数としましては499人になりました。続きまして未婚者についてです。回答者の属性ということで男性が57.9%、女性が41%という割合となっております。職業であります。正社員・正職員が53.1%になっていました。

3ページになりますけど、ここからが未婚者の集計・分析からうかがえる傾向をお話し

ます。まず傾向であります。1つとして結婚に遠い現状ということがあると思います。交際率の低さ、出会いの少なさ、ソフトな出会いを期待しているということがあげられると思います。問14の「異性との交際」のグラフを見ていただきたいのですが、交際していないが、男性が67.6%、女性が55.3%と半分以上の方が交際していない状況が分かりました。問15の「出会いの機会」ですが、出会いの機会がほとんどないが、男性が41.5%、女性が46.1%、年に1回程度あると合わせると50%を超えるということです。続いて問16の「結婚していない理由」のグラフですが、結婚しないのは適当な相手にめぐり合わないから、全体で39.9%と最も高くなっています。問17「異性とどのように出会う機会があるとよいかについて」は、結婚に直結でないソフトな出会いを求める割合が高くなっています。というのは、趣味や娯楽を通じて出会う機会が6割を占めておりまして、友人の紹介も5割近くになっております。もう1つの傾向としましては、婚活についてはまだまだ消極的ということです。問18の「現在婚活をしていますか」という問に対して、「している」は男性が11.3%、女性は5.3%でありました。婚活しない理由も、「特に無い」、「面倒くさい」が合わせて全体の52.3%。問22の「行政に期待する婚活支援」を見ますと、行政に婚活支援を特に期待しないは全体の50%になっていました。続いて5ページであります。もう1つの傾向としましては、結婚観の多様化ということがあげられると思います。結婚したいと回答したのは全体の84%でした。この中で「いい人が現れたら結婚したい」が36.8%と最も高くなっています。問9でありますけど、「結婚に喜びや希望を感じるか」という問いについては、感じると回答した人が全体で61.5%、どちらともいえないが26.7%となっております。続いて(3)の生活についてですが、ここで言えるのはコミュニケーションに対する苦手意識という傾向があると思われれます。コミュニケーションを苦手と感じる割合は「初めて会った人」ということで37%、「異性との会話」で34.9%ということでありまして、コミュニケーション不足が懸念されるということが言えると思います。続きまして6ページであります。自分の時間でリアルな対人関係が不足している男性が多いということでもあります。問3の「余暇の過ごし方」のグラフを見ていただきますと、余暇を一人で過ごしている男性が51.8%になっています。問2「趣味」でありますけど、「パソコン・携帯」が趣味の男性が39.4%で、男性の中で最も高い割合になっています。詳細については後程ご覧ください。

最後に、1ページの前にあります「アンケート1次集計から垣間見る櫛引地域の未婚者像」をご覧ください。若干重複しますが、①「結婚していない人は、特定の人と交際しているか」ということですが、男性については6割以上が交際していないということです。では、未婚者の出会いの機会とは言いますと、「1年に1回程度」と「ほとんどない人」の合計が、男性は56.6%、女性は54.8%で半分以上となっております。それでは「婚活はしているか」ということですが、何もしていない人が圧倒的ということで、男性が82%、女性は83%となっております。それでは「異性とどのように出会う機会があると良いと考えているか」についてですが、「趣味や娯楽を通じて出会うたい」が約6割で、次に高いのが「友

人の紹介」ということでソフトな出会いを求める傾向にあります。「そもそも結婚したいと考えているのか」につきましては、「必ずしたい」・「いい人が現れたらしたい」・「いつかはしたい」の合計が、男性は84.8%、女性は82.5%ですが、「必ずしたい」という方については男性が21.1%、女性が27.2%になっております。「余暇はどう過ごしているか」については、男性は「一人で過ごしている」が51.8%、女性は「同性の友人と過ごしている」が45.5%、趣味についても先程申し上げましたが、男性は「パソコン・携帯」、「ゲーム」の割合が高く、特に「ゲーム」の割合が高くなっています。女性については「友人との遊び」、「音楽・映画」、「おしゃれ・ファッション」の割合が高い傾向が見られました。

まとめますと、未婚者の意識がこのままだと、晩婚化・非婚化がさらに進み、少子化が加速する危惧があるということで、大変心配される状況にあると思います。以上です。

会長

調査の結果についてはかなりの数字が出ておりますので、大変参考になります。今、おまかな報告をしてもらいましたが、アンケートについてご意見ございましたらお願いします。

小林 良市委員

これと同じ質問は既婚者にもしているわけですが、未婚者が出会いの機会がほとんどないということでしたが、既婚者はどんな回答をされていたのでしょうか。ここに既婚者と未婚者のギャップが出てくるのではないかと思います。それからそもそも結婚したいと考えているか否かという質問に対し、既婚者でも必ずしもしたいと答えなくても、いい出会いがあったので結婚することができたといった回答もあったのではないのでしょうか。既婚者も含めた集計を出すのでしょうか。

佐藤

もちろん、先程も申し上げましたが、既婚者も含めまして最終的なまとめを出したいと考えております。質問の内容ですけど、既婚者については既婚者用の質問が用意されておりまして、「どのような理由で結婚しましたか」と「配偶者とはどのようなきっかけで出会いましたか」という質問をしておりまして、その部分を未婚者の方との比較の参考資料にできればと考えております。既婚者につきましてはまだ集計が出来上がっておりませんので、集計を進めまとめに入りたいと思います。

小林 良市委員

現状でこの地域では出会いの機会が少ないのかなのか、結婚した人は出会いの機会は少ないと思わずに結婚できたのかもしれない。

佐藤

既婚者については出会いの機会が多いか少ないかは質問しておらず、この地域で出会いの機会が多いか少ないかは分からないと思いますけど、未婚者には出会いの機会が多いかは聞いていますのでどう感じているかは分かると思います。そのことについては先程も申し上げましたが、出会いがほとんどないというのが男性で 41.5%、女性が 46.1%で、年に 1 回程度あるかと考えてみますと、半分以上がほとんどないと感じているわけです。以上です。

小林 良市委員

結果的にどういうことを言いたいかということ、未婚者の結婚していない理由は個人の理由によるのか、地域社会が構造的に抱える問題、例えば出会いの場が少ない、収入が少ない等が原因になっているのかということです。個人のことになると、地域審議会でもいろいろなアイデアを出しても、「あなたの性格を直しなさい」ということでは難しい、けれども地域社会の構造とか社会全体の結婚に対する考え方、家族の結婚観、家庭教育であれば対応策が違って来るわけです。それを分析するためにも既婚者の考え方、どうして結婚できたか、出会いの機会はちゃんとあったのかを踏まえ、個人と社会どちらの問題か整理が必要と思いました。

松浦 安雄委員

大変貴重で良い調査ですけども、若者の結婚する意志もない人、したくてもできない人が増えているということでもあります。今我々が幸せを感じるのは結婚しているからだと思います。家族があるから幸せだ、そういうことをこれから資料によって若い人たちに分かるようなデータを出してもらいたいと思っております。やはり「結婚して良かったな」そして「子供がでぎで良かったな」「孫でぎで良かったな」そういう育ち方を見守っている姿、家族愛を教えてくれるような調査をしてもらいたい。家族愛が不足している傾向にあるので、このデータも「結婚して幸せだ」、「今現在どのようになっています」そういうことも若い子たちに分かるように家族や社会の秩序というものを分かってもらえる資料にしてほしい。60 歳になった人から「結婚しておけば良かった」という話があります。子供がないことが悔いになるということもありますので、それらのことも調査で分かったら若い人たちも興味を持ってくれると思います。

会長

ありがとうございました。ほかにもご意見があると思いますが、これから支援のあり方について協議する場もございますので、まずは分析の結果の意見について終わりにします。

5、協議

佐藤

ただ今松浦委員からお話ありましたが、結婚に幸せを感じるかと言う設問は既婚者も未婚者にもとっておりますので、ぜひ比較して資料として準備したいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

会長

佐藤さん、ここにいる人たちはアンケートをおそらく誰も見ていないと思うので、後で用紙を皆さんに見せてください。

それでは5の協議に移りたいと思います。(1)の「地域社会で取り組む結婚支援のあり方」について、(2)今後の地域審議会の進め方についてとありますが、事務局、どのように進めればよいでしょうか。

次長

それでは協議でありますけど、まず(2)の今後の進め方について確認をさせていただき、(1)に移らせていただきたいと思います。(2)の「今後の地域審議会の進め方について」でありますけど、第3回の地域審議会は11月下旬に開催させていただきたいと考えております。予定しております内容は、進めておりました榊引地域農業農村課題調査の中間報告を産業課からさせていただきます。総合計画実施計画策定にかかる説明を本所企画課から行います。それと地域協議テーマであります結婚支援の協議をさせていただきます、中間のまとめをさせていただくと考えております。このほかにも報告や、協議いただくことがあるかもしれません。

第4回の審議会につきましては2月の開催を予定しています。内容は本所各担当課から課題などの説明をさせていただき、それに対するご意見をいただきたいと思います。平成23年度の地域審議会の進め方についてお諮りいたします。それと今進んでおります協議テーマの議論をお願いしまして、まとめて提言としたいと考えております。

(1)の「地域社会で取り組む結婚支援のあり方」についてであります、参考事項ということで記載させていただきました。平成22年度中に地域の婚活支援対策検討会は3回開催予定で進めております。1回目が7月23日、2回目は10月6日に本日ご案内させていただいたような中間報告をさせていただきました。3回目については11月の中旬に第3回地域審議会の前に開催予定で、検討会のまとめを行いたいと思います。委員の皆さんにそれぞれ未婚化・晩婚化への対応を当事者だけの問題と捉えるのではなく、それぞれの分野で連携しながら進めていくあり方の意見集約のお願いをしております。未婚者結婚支援、事業者、家庭、学校、地域、市民団体、職場、行政など各分野で必要と思われることを対策検討会の委員の皆さんに出していただきまして、それをまとめていきたいと思っております。11月中旬に予定しております第3回の対策検討会でまとめていきたいと予定しております。

会長

今後の予定については報告のとおりでありますし、この次の開催は11月下旬を予定しております。なお、結婚支援のあり方については11月の中旬に検討会を開催するという事になります。支援のあり方について皆さんご意見あるかと思いますが、皆さんから1分ずつくらいで頂戴したいと思います。

金内 勝雄委員

いろいろ資料を見ていましたら、朝日や羽黒、藤島、温海に比べ櫛引の30~40代は結婚している方の方ですね。これまでの資料を見てみると悲観的になってしまいますが、資料4を見ますと、各地区の未婚状況の割合が出ています。櫛引の55~59歳の男性が未婚者は3.7%、温海10%。櫛引の別の年代を見ても結婚している。女性の場合も50~54歳が1.4%、旧鶴岡市内が4%。ということは、櫛引の未婚者は他地域に比べ少ないのもうひとつががんばりの状況にある、そこに希望を持ちながら今後どういう手立てがいいのか。今日の河北の資料を見てみると、どうも行政でやると成功率が低いけど、業者がやるとなかなか成功率がいいようで、このあたりに何か手がかりがあるような気がします。今後とも検討していきたいと思えます。

小林 良市委員

データはいっぱい出ていますけれど、結婚は最終的に個人のプライバシーにつながる事なので、ある種限界を感じながら取り組んできました。でもこのままいくと、この地域を活性化していく将来のために、深刻なものだと行政も地域の人たちも捉えることができるか、まだ大丈夫と思えば先に進まないで、その意識の持ち方をどんなところで共有できるのか、そのへんを議論の対象にしてほしいと思えます。

五十嵐 繁委員

統計の調査結果ですが、大変参考になりました。これに対する具体的な施策が一番でございます。統計をとるだけでなく地域の住民が一体となって取り組む姿勢、それからどういうふうにしたらいいかということもこれから検討する必要があると思えます。

成田 勇委員

アンケートに答えた未婚者が約500人。この人たちが全員結婚すると1,000人、その夫婦から2人子供が生まれると2,000人。数字上は櫛引の人口が1,500人増えることとなります。大変意義のある活動だと思いますが、先程ありましたように既婚者と未婚者の比較の中から我々が何を施策として行ったらいいのか編み出すことが大事だと思います。一昨日も聞いたのですが総じて言うと、男を磨かないとだめのように、そうするとどのような方法で男を磨かせるかということでございます。例えばモデル地区を作ってみれば、そこから施策上の課題が出てくるのではないかと思います。

遠藤 一男委員

家では子供は皆結婚しておりますけど、当地区では5, 6人が未婚です。我々がすぐサポートできるわけでもありませんし、先程三浦さんから聞いた業者の方のパーティーでもやってみてもいいと思います。

芳賀 俊之委員

2つありますけど、1つは先程支所長からもありました婚活対策支援検討会があって、なぜ審議会がまた同じテーマでやるのかというのがいまだ分かりません。そこをこれからどうするのかお尋ねしたいです。それから資料の31ページを見ますと、いろいろな回答があります。これを見ますと結婚すると行動の自由が制限される、仕事と家庭の両立が心配だ、生計を立てることが困難だ、育児の心配、介護の心配もあって、家族との同居が心配だと答えているわけで、先程松浦さんが精神的なことを話されていましたが、現実はどうだと私は思っています。一度検討会がどういうことを検討しているかぜひお聞きしたいと思います。

阿部 元喜委員

僕はまだ結婚はしていないのですが、周りの友人もまだ結婚は意識しておらず、結婚は個人の問題だと思います。出会いが少ないと感じている人もいますので、出会いの場を作ることは重要でしょうが、結婚することが目的ではなく、何を目的として結婚するかを考えなくてはならないと思います。何も考えず結婚してはその子供が不幸になってしまうことがあると思います。結婚することは自分が幸福になるためにすることだと思いますので、結婚の先に何を求めるのかを考えていくことが大事だと僕は思います。

畑山 久恵委員

アンケートの集計が出来たことですし、どのような形で進むかがこれからの課題ですけども、できるだけ早く出会いの場を作っていきたいなと感じております。

上野 進委員

先程行政主導ではなかなかうまくいかないのではというご意見もあつたようですが、私の意見としてはやはり背中を押すきっかけ作りは、最初は行政が旗を振って、その後いろんな団体が自分たちでやってみようかということになると思います。このアンケートの結果によって議論が進んでいくと思うので、これからさらに煮詰めてきっかけ作りをするのがいいのではないかと思います。

成田 新一委員

農協でも7月ごろ婚活のパーティーをやったのですが、男女の人数を同数集めるのが大変でした。また、私が住むたらのき代地区ですが、今年子供が5人生まれましてさらに今年度中にもう1人生まれる予定で、嬉しい話ですが、先日我々と同年代で話をすると、子供ができたから結婚するケースでは意外と結婚式がないんです。届を出してそれだけで終わり、親としては子供たちにお金がなくて結婚式ができないということであれば親が結婚式をあげてやらなければ、といった話が出ました。親としてはやはり結婚式くらいは身内だけでもやらせてあげたいと話がありました。

澤川 宏一委員

婚活支援検討会をこれまでしてきたわけですが、今度どういう行動に出るかです。対象者にいち早く情報をお知らせしていく。出会いのチャンスなど情報はあると思いますけど、こういった情報をすぐお知らせする体制が大切だと思います。時はどんどん過ぎていきますから、そういった行動は大事だと思います。

渡会 昇委員

出会いの機会がないと言うのであれば、いかに出会いの機会を作ってあげるかをしっかり提言しなければならないと思います。それから地域審議会の進め方でありまして、楡引地域のコミュニティ実態調査の結果がこうして出ていますから、これを基にして問題を審議していくことが必要だと思います。

佐久間 泰子委員

私も若者が休みの日どうしているか不思議に思っていました。パソコンや携帯で自分を磨いていると思いますけども、もう少し地域に出るような体制を考えなければならないかと思っています。それと、審議会でも地域のことが話題に出ますので、どうやったら若者を地域に出てもらえるかを考えるいい機会だと思います。

田中 敦委員

私はこのアンケート調査が何%くらいの回収率になるか気にしていましたが、せめて80%以上は行ってほしかったと思います。これをみますと69%ですか。今現在未婚の方が約500人いるわけですので、先程河北町からもありましたが、出会わなければ始まらないということで、せっかくここまで来たので後は進めていただければいいかなと思います。ただ、1つ気になることが河北町自体の登録者が男は10数名にしかならないことで、これをどのようにしていい方向にもっていくか、このへんをぜひ検討していければいいのではないのでしょうか。

会長

ありがとうございました。参考までに分かればですが、アンケートの回収率が 69%ですが、その中で未婚者が約 500 人。もし把握していれば櫛引地域全体を対象にした場合未婚者はおおよそ何人ですか？

佐藤

対象者のデータはあります。世帯主から見た続柄がありまして、それを調べていきますと、夫や妻がいない場合はシングルになりますのでそういう人を単純に計算していくと 1,000 人強という数になりました。そこには離婚・死別も入っている数字です。

会長

1,000 数人ですね。いろいろご意見をいただいたわけですが、時間もなくなってきましたので、その他ですが。

次長

今、委員の皆様から意見をいただいた中で芳賀委員の意見についてお答えさせていただきたいと思います。2 回目の地域審議会を開催しまして、委員の皆様にお礼申し上げます。櫛引地域では審議会ですらどのようなテーマにするかのご協議いただきましてこの婚活というテーマにさせていただきました。一方でコミュニティ実態調査の結果、多くの地区から寄せられました結婚対策について心配をしているという報告を受けまして、櫛引庁舎の平成 22 年度地域課題調査としたところでございます。婚活支援対策検討会においては実態調査に関することですか、全体で婚活を支援していく気運の醸成ですか、地域社会で取り組む結婚支援のあり方について各地区の区長さん、女性委員の方から意見をいただきながらとりまとめをさせていただくということです。その報告を受けて、また審議会ですら委員の皆様からご意見をいただき新年度の施策に反映させていくという考え方でございます。同じ事をやっているということでは決してありませんと私どもは理解しております。

また、渡会委員からはコミュニティ実態調査の結果報告の内容について地域審議会でも話をするべきという意見でございました。短期間の中での審議会ですら、そこまで十分時間がとれないという状況で申し訳なく思っております。次回以降の内容につきましても各委員の皆様からご意見を頂戴できれば大変ありがたいと思っております。よろしくお願ひ申し上げます。

支所長

私から補足で、今次長が申し上げましたとおり地域審議会では櫛引地域の課題について審議する場となっております。やはり地域課題として婚活が最大の共通課題ということでテーマにさせていただきましたところであります。

それから今後の進め方の中で、冒頭で申し上げましたとおり予算に少しでも反映できる

ところがあればということで、予算の概算の期限が11月ですので、3回目でおおよその中間のまとめということをお話したわけですが、今日も多くのご提言を頂戴しましたので、こちらでも協議し、さらに検討会で11月中旬にまとめとして提出されますので、ご参会の審議会では審議会の提言としてまとめていただければと考えておりますので、よろしくをお願いします。

会長

それでは5の協議をこれで終えたいと思います。私はこれで進行を交代します。

6、その他

次長

会長には長時間にわたりありがとうございました。

6その他であります、説明させていただきます。

主査

先に配らせていただきました10月23日の鶴岡市婚活支援講演会のチラシですが、委員の皆様からも、この場所で行いますので、是非お出でいただきたいと思われ、特に未婚者の方、榊引地域に限りませんので、お声かけをして、ご参加を促していただければと思います。来週に榊引地区には全戸配布しますが、是非直接声をかけていただければ有難いと思われ、よろしくお願いをいたします。

7、閉会

次長

以上を持ちまして今年度2回目の榊引地域審議会を閉会させていただきます。大変ありがとうございました。

16 : 10